明治三十一年八月廿五日

女學雜誌

第四百七十號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第四百七十號目次

(一)社説
時論
社會の腐敗を如何にせん

(二)女學
[illegible]
女學の一弊
[illegible]

(三)評論
學者政治

(四)教育
教育學者の用
教育の觀念
文明開化の女子

(五)雜録
[illegible]
[illegible]

(六)時文
新小説 日本名勝記 [illegible]

(七)片々 (八)時報

社告

[illegible]

●女學雑誌廣告料表●

[illegible]

社告

櫻井成明君譯
腓立比物語
正價金六十八錢 郵稅金六錢

[illegible]君著
婚姻論
正價金四十二錢 郵稅金四錢

若松賤子君譯
小公子
正價金三十五錢 郵稅金八錢

前號四百六十九號(八月十日發行)要目
[illegible]

故若松賤子女史
巖本嘉志子
正價金六十錢 郵稅金六錢

中川靜著 故小此木秀野君介著
俳諧史傳
正價金十七錢 郵稅金四錢

故鈴木弘恭君述
百人一首講義
正價金十八錢 郵稅金四錢

同
文法口授
正價金十二錢 郵稅金[illegible]錢

故若松賤子女史譯述

再版

小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本寄代の妙なとり純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、傍に憐あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者に愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず、賤子女史嘗に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す、森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、嘗て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を擲る能はざりしと云へり、然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり、即ち茲に其遺稿を收め、女子が一周忌日に行せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ、其友湘煙中島女子は字を題し、舊友松井昇氏は挿畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京巣鴨村庚申塚 文學雜誌社

八月刊行 第十五號

社會學社會問題及社會政策之評論

社會雜誌

●政黨内閣樹立後の社會 …… 社說
●兵隊 …… 社說
●貧民に對する救濟 …… 吳文聰
●新法典と日本國民 …… [illegible]
●地租增徵と小作人問題 ……

蓄妾問題（十七頁餘に亘り極めて精細なり） 山形東根

●如何なる人が蓄妾する乎、蓄妾者の職業身分別
●如何なる女が人の妾となる乎、妾の素性別
●二人及其以上の蓄妾するもの、女の年齢組合せ
●妾の年齢別より醜行を觀察す
●妾は何處に住む乎、詳かに之を示す
●妾の子の有無に就て、
●蓄妾する動機如何、何故に蓄妾するかを明かにす
●蓄妾より來る弊害、[illegible]
●矯正の策如何、廢妾の方法を示す
●終りに、蓄妾者に反省を促がす

◎犯罪と狹俠及習慣 …… 石川惟安
●勝海舟翁逸片 ……
●風俗頽廢の由來 ……
●山靜かに清談 …… なにかし

◎總目錄付（自第一號至十五號）

定價一冊十錢、郵稅一錢、六冊六十五錢

發賣元 麹町區下六番町六番地 社會雜誌社

東京裁縫女學校長　渡邊辰五郎先生著

裁縫教授書

全部三冊　定價金一圓　郵稅金八錢

渡邊先生の裁縫に於けるや技術に長じ、理論に精しく、殊に其敎授法の巧妙なるに至りては、餘人の企て及ぶ能はざる處なり。此書は即ち其特長の敎授法によりて、諸般の裁縫技術を親切叮嚀に說明せられたるものなれば主婦は素より女學生も亦裁縫を學ぶに當りて、必ずや坐右此書を備ふるの要あるなり

大取次　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

◎醫療　耳科

診察時間　午前八時より正午まで

本郷區元町二丁目三番地　水道橋外壹岐坂北裏角

小此木耳科醫院

院主ドクトル　小此木信六郎

博愛社廣告

[illegible]

一 受付建築及び敷地築立の見積
敷地築立費豫算 [illegible]
建築費豫算 [illegible]
此の內へ家屋一棟 價格大凡一千圓 既に寄附豫約整へり
以上の費用 [illegible] 家屋建築の不足金一千圓
合計 [illegible] 大方有志の義捐同情を仰ぐ

發起人

[illegible]

女學雜誌

第四百七拾號

明治三十一年八月廿五日發兌

社説

時勢談

◎内閣の交迭とか、爲政の變革なぞと云ふとは、從來大抵十月より十二月にかけて行はれたものだ。秋に入つて人氣一新し、年の暮に近づいて、ちと眞面目に考へるやうになる頃が丁度、機を決するものと見えた。然るに、今度は段々暑氣に向ふ途端で、其上妙に沛然たる降雨もなし、何だか万事が集まつて來て、人心を倦ましめるやうだ。

◎人心をして倦まざらしむ」と云ふは、爲政の秘訣に相違ないが、倦なべき時に倦ましむるは亦た當然の政事であるとを知らねば成らぬ。揔べて、元因結果の天則は嚴かなもので、中々姑息な手段で免かれるとは出來ぬものであるが、天下國家の公事に關しては、尚更ら左樣だ。既に結果となつて顯はれ來るとであらば、夫丈けは十分に發現せしめねば成らぬ。なまじひに之を防いで、因循なる治療を施してはならぬ。一層、病勢を深くする丈けの事で、眞の本復に達するには反つて遲くなると覺悟せねば成らぬ。

◎一言すれば、今日の病は「人心苦厭」の四字に落ちる。不景氣と云ふとも、八九分は之から來て居る。不景氣だからまた人心苦厭する。乍然、今度の不景氣は、人心の苦厭から來て居るので、彼を以て此の元因とせねば成らぬ。左らば、何によつて人心苦厭したかと云ふに、日清戰爭と遼東還附とを以て其の根源とせねば成らぬ。

◎新聞屋なぞが數ば探索する彼の貧民窟と云ふ所は、非常にあはれな所と思つて居る人が多い。成程、あはれには相違ないが、其の哀れさは少し人々の思惑とは違つて居るのである。一躰、貧民窟の生粹とも云ふべき貧民は（神田で生れた神田ッ子と云ふやうなもの）自から貧の貧たるとを知らぬ。故に、

一

貧乏の苦しいとも知らぬ。例に緊張を外づして貧に置き、前への晩にあつけた天稟ほど入かへると云ふやうな生計を為て居て、、争つて平和だ。何故なれば、之を常とあきらめて、少しも慾がない。不平がないから争つて詳いものだ。生れ付らの貧民ほど心持の善い人間は少ない。總理大臣と言つた所が肩役有がたくもない　顯官だの、訟外役などと云ふ空説は知らぬ　一日働いて賤一杯食つて、コロリと寝て、太平樂の夢を眠る、もし此が許つて仕事が無ければ、辛抱して寝て居て話しを公る、ソリヤ、豐臣大閤のものだ　然るに、此の貧民窟に居ながら出を思代。カンテラの燈火のかげで、オロ〱涙をこぼし、子供の頭を撫でて、可愛相に此の子はなどと泣いて居るものに限つて、下様のお色とか、日勝家の崇ぶれに出つて居る　此の部ぶれものに限つて、身躰やせ、顏色蒼く、氣力綿無であるに拘はらず、彼の本來の貧民は、話彼極まるものだ　其顏色と云ひ、性格と云ひ、中々、コレ、などに取つかれるやうなものでない　扨て、此の二個の相違をもつて考へて見ると、人の丸れの操作如何と云ふ一つが直きに分かる　望たまたものを望んで心に平かならぬ所があ

二

れば、元氣直ちに沮喪する。如何に貧乏の地に在つても、之に安んじて居れば、元氣が衰へると云ふとは決して無い。國民の人氣の沮喪するとせざるとは、其の望む所のものが得られると得られぬとの相違で起るものである。もと〜望まなければ、得られぬとても不平はあるまじきに、既に得られると思つたものが手に返らぬ時の失望は非常なもので、其人氣が沮喪するより外はない。この情合から考へて見れば、廿八年以來の大勢は火を見る如く明白に分かる。

廿七八年戰爭の頃は、日本人の膽が一時に膨張したやうに思はれた。目方にかけて見たらば、やさ男でも三十貫もあつたらうと思はれる程であつた。遼東も臺灣も此方のものとなり、四百餘州も半分位は取れるだらう、僅かに廣くなつた國民としては、自分の小さな居間までが千疊敷になつたやうな心持がした　此時、既に露獨佛三國の危機を豫告したものもあつたが、中々、耳に入らぬ　伊藤侯などは大相の師元氣であつた。然るに、三國の牡丹餅が中途から外れて、手に摑つたと思ふた實は一時の夢に詠した　國民の大失望は既に此時に兆して居るのである

◎イヤ、さうではない、償金を餘計に取よせて、無暗に戰後の經營を大きくし、又、徒らに會社を起して、一時、株熱に浮かされた爲めに、物價騰貴を來し、引續いて經濟界の困難を來したのであると言ふ人もある。伊藤侯なども、平氣で斯樣な演說をされたこともあつた相な。驚くべき議論だ。戰後經營の大きくなつたのは、遼東還附の爲めである。株熱の勃興したは、償金の這入つた爲めで、即はち、其根元は、日清戰爭にある。もし、責の歸する所を明らかにすれば、當時の伊藤侯こそ第一に其責を負はねば成らぬのである。固より、今更ら誰を責めたりとて何の甲斐もない、寧ろ自から責めて他日の經驗にするが第一ではあるが、伊藤侯もしくは其亞流の如く、單に、軍備擴張論者又は經濟界の人などを責めんとするに至つては、實に不都合千萬の事である。此等はたゞ結果に過ぬ、更に其の元因となるものが有つたから、こゝに至つたのであることを知らねば成らぬ。

◎扨て、斯樣なる關係よりして人心の萎靡を來し、其の萎靡より不景氣を來し、遂に今日の逆境に臨んだ。之が救濟法として樣々の建策も見えるが、近來、又もや人心を外部に誘つて、夫から一轉の機を作らうとする策士の工夫がチラ〳〵と見えて來た、眞に悲しむべきことだ。伊藤內閣の時の日清戰爭も、つまり、此樣な策から出たのである。陸奥伯が當時の苦心を自から筆記し、蹇々錄と題し、凡そ何人が處置するとも、多分此の外には出來まじと迄で自から誇つて、其の經歷を書かれたが、悲しむべし、日清戰爭のはじまりは、無名のイクサに過ぬと云ふことを、自から千古に吹聽された丈けの事で、絕代の一奇才が、後世に遺されたる此の書物は、多分返く〳〵と國辱に算へられ、後には人が之をかくすやうになりはせぬかと思はれる 其の戰爭の開き方が如何にも公明でない、コチラより無理に挑んだ工合が明白に書いてあるからである。然し乍ら、戰勝の夢に醉ひ、チャン〳〵坊主の歌が流行つた比は、此の策が如何にもエラさうに見えたことであらうが、今となつては、往々之を非議するものが現はれるならんと思ふ程であるに、又もや其の故轍を踏んで、無益なる對外政策を施さうとするものがあるのは、如何にも馬鹿らしいことである。

◎近頃の外交論者は、ヤ、ともすると、日英米同盟とか、日

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

攻守同盟とか言つて、何か當方の好き嫌ひで、諸外國を撰り分け、手前の勝手次第の注文をして、夫で事が成就するやうに思つて居るらしいが、世間見ずと言はうか、世界見ずとでも言はうか、甚だしい己惚のことである。青年男子が、己れは誰々と緣組をすると自分でキメて、さて先方へ交渉して大笑ひになるやうなもので、抑も日本と云ふ國は、どれ程に外國から見られて居るであらうかをよく〱分別せねば成らぬことであらう。力があり、器量があると言つても、愛嬌がなければ緣組の出來ぬこともある。愛嬌があつても、緣と云ふものが無ければ出來ぬこともある。國と國との交際でも矢張り左樣だ。

但し、第一、何故に左樣な好き嫌ひを爲す乎、何故か二三ケ國丈けを友邦として、其他を疎外するの必要がある乎、甚だ、見當の狹いことである。四海兄弟、天下一家で、平生は、如何なる國も、如何なる人をも、同胞と思はねば成らぬ。ただ、大義名分に從つたる利害の問題の時、止むことを得ず、友ざなり、敵となることもあるが、其の止むことを得ざる事情が天下に明白であるから、決して永久の怨を引くこともない。然るに、平生、無事の時に當つて、左樣な、好き嫌ひを爲す時は、其の怨と云ふものは中々容易に拔けるもので無い。

よし又、故あつて平生無事の時に、尤も親しい友邦を造り置かふと云ふのであるならば、夫相應の實事に力を盡し、實際の上から親しくならねばならぬ。單に廟堂の上で、二三のものが、紙の上に條約らしいことを書いた所が、平生無事の場合の交際と云ふものは、夫ではまとまらぬ。維新前、薩長二藩が同盟したのでも、世には坂本龍馬の遊說によると思ふものが多いが、夫はホンの一時の機會に乘じた丈けの事で、此機會を來らせた實事上の盡力は、其前々から既に深く行はれて居つたのである。先づ、薩州長州の間に、追々貿易が行はれたのが、其の程度であつたが、歐洲列國の同盟でも、互ひに隣接して、親密の情が民間から來て、息子が獨逸で軍人になつて居るとか、先祖が英吉利から來て、叔母さんが伊太利に住つて居るなどと云ふやうな都合が、まとまり、まとまつて、遂に國民の親交と云ふものが出來るのである。然るに、今の日本の商賣の仕方は言ふ迄もなく、第一、文部省などの教育の仕方は如何だ。國民の氣合が、今の狀態で、直ちに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

同盟などと云ふは、ホンノ間に合せの附合で、至誠の交際でない。至誠にあらざる策が善く行はれるためしが無い。行はれても必らず害を遺す、決して政士たるものが、國の爲に試むべき道筋であるまい。

◎一家でも、一國でも、困難に臨めば早く其の難を免かれたいやうに思ふのが甚だ宜しくない。幸福にせよ、災難にせよ、其の由て來る所の淵源は悠遠なるものであるから、斷じて、一時逃れの精神で之を送迎しては成らぬ。逆境と、順境と、同一の理法で、極めて嚴かなる精神をもつて之に臨まねば成らぬ。熊澤蕃山の歌に、

憂き事の尙ほ此上につもれかし、
こゝろある身の力ためさん。

とあるが、如何にも大人の氣象である。既に因果めぐり來つて惡運となり、現に逆境に際會したらば、決して〱速やかに之を通り越さんと思はず、よく〱苦心して其の災を償のひ、勉強して善業を積み、他日の爲めに潛勢を養はねば成らぬ。凡そ、上帝あり、理法あり、萬國ある、莊嚴の世界に居ながら、僥倖を握て之を久しくせんとし、艱難に臨んで其苦を逃れんとするとは、思はざるの甚しきことである。斯樣なる怯弱の精神をもつて一時其私を回復したりとも、決して常になるものでない。今の逆境に際したることそ幸ひなれ、眞面目に救濟策を考へて、堅牢不抜なる眞の順境に立ち出るやうに苦心せねば成らぬ。

◎夫には、別段、面白い新工夫もあるまい。人々眞面目に勉強して、何事にも僥倖と云ふことを頼みにせぬやうに爲ねば成らぬ、一時の外交の拙引で、忽ち國利民福を增さんとし、內閣の交迭で、急に萬事萬端が改まるやうに斗り待つて居るのは、甚だ宜しくない。此點に付ては、かの支那人を見て戒めとするが善い。支那人は實に日本人の短所に對する有力の教訓である。

◎支那人は代々の變遷に倣ひ、屢ば大戰爭に出くはし、政府の頼みがたきことをよく〱實地に承知して居るから、政府の力によつて國家を維持しやうなどとは思はぬ。其の國家に對する觀念は少し日本流とは違ふ。之は國柄國勢の違ふゆゑで、何れを是とし、何れを非とするとも出來ぬ、國々の特色である。然し、一から十まで、政府の力で事を仕ようとする

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

民間の氣風は、速かに改めたいもので、夫には、支那人の仕事のやり方を判斷するのが、至極利益である。支那問題が、果して追々流行して來た。支那へ行く人も段々殖えて來た。然し、今の商人が支那を思ふ觀念は丁度ウラハラである。支那の爲めに心配して居るらしい。之は與に余計のお世話である。支那は中々、日本の世話で開けるものでもあるまい。第一、其の大層な物產が天下の人心を引付けるのであるから、必らずしも日本人の義俠を必要とすることはなからう。然し乍ら、日本の同胞がいよ〳〵多く支那にゆき、支那の人がいよ〳〵多く日本に留學するは、至極喜ぶべきことである。將來の國交、前途の東洋の平和は之より來ることであるが、悲しむべし、今ではどうやら形勢が支那に移つて、天下の人氣は日本を離れたらしい。十九世紀の下半紀は東洋では日本、二十世紀の上半紀は、支那得意と爲つて仕舞ふらしい。否く、さう爲つて仕舞つてから悔むも最早や甲斐はない。今日よりの準備と云ふものは、支那將に起に對する日本の正大、堅牢、高潔なる態度にあることであらう

の扱て、前にも言つたる如く、國家の受くる因果の大道は、嚴かで、且つ長く掛るものだから、左樣早く且つ横着に通り拔けることは出來ぬ。長きは百年、之を世一紀とす、次は三十年、之を人一代とす、次は十年、之を機一轉の時とす。故に今の逆境は、前々の失策の結果であると覺悟して、必らずしも手取早く逃れんことを工夫せず、別に順境を作り起すべき元因を今に於て着々工夫するので、即はち夫が常に整はらぬ苦心慘憺と云ふもの、又、大道に反かず、小策に走らぬ公明正大の處置と云ふもので、之より外に別段面白い奇策のあらふ筈がない。其のやうな奇策を常にする心持が第一、誤謬の根本である

然し乍ら、人氣人望に乘つかつた今の內閣は、今少し仕様があらうものを、之と云ふ目覺しいこともなく、最早や人心を倦ましめるやうだ。日本人もボツ〳〵見える。之れ實に一つの考ものである

社會の墮落を如何せん

鴉村

今や我國の社會は、一般に風俗の墮落、甚だしきを告げて、禍や、既に膏肓に入れるの感あり。世上多少の氣慨ある人士は、皆此頃頗る之を慷慨して、如何かして之を救治せんやと憂ふるものあり、また其罪を鳴さんとするものあり。萬朝報の手いたき蓄妾打擊の如きは、人をして、一層社會の墮落の幾許なるやに思ひ至らしむるの好き便となる。あはれ、現時、國內何處に往くとして、風俗頹廢の歎を聞かざるはなく、とは果して、三千年の祖國も、やがて、ソドム、ゴモラの如くに滅ぼされなんとするものなるか。轉た之を思ふて、之を痛まずんばあらず。

社會墮落の徵候は、近來、やうやく甚だしと雖も、此墮落其者は、決して此頃假に起りたるに非ず、蓋し因習既に久しきをなして爰に至れり。自から稱して君子國と云ふと雖も、我國俗たる、由來、宗教に冷淡にして、道念缺乏するに由く、特に男女間の道德を重んぜざるの風あり、今に至るも、學者、なほ多妻の不義なるを曉らざるものさへあり。これを以て社會の道德は一般に劣等にして、太平無事の時代にてもあらんか、乍ちに墮落の甚だしきを致す。彼元祿以後の如き、言ふに堪へざるものありき。

此國柄なるに、いよいよ此に風俗を墮落せしむる大動機は來れり。即ち維新以後、社會の大變動に連れて、國にも家にも、舊禮習全く廢れて、未だ新禮習何日にか起るべきかを知らず。過渡の時代となり、未來なる新日本の建築中に在り。全國中、風俗の最も亂れたる處を、新開港場となす。試みに橫濱、神戶の地を視察するに、其男女道德の墮落は、殆ど言語に絕す。これ此等の地、素より舊禮習なく、而も新禮習未だ起らざるによる。されど大觀すれば、我國は一時に、新開港場に似たり。過渡建築中の時代にして、滊車滊船等、文明の利器は、開化を移すと共に、たちはやく、惡風習を傳播し、都會淫靡の風は、山村僻地をも撫でまはして、忽ち舊風をして地を掃はしむ。古來交通の最も盛んなる處、即ち天下の大輻湊たる大都會は素より、宿場、船着の如きは、風俗の最も廢れたる地なりき。山を去りて、海に近くに隨つて、人

氣惡しくなり、特に社會の道德に至りては、頗る廢れたりき。然るに、今日となりては、交通の便、遍く開けざるなくして、即ち道德は到る處に頽落せり。交通盛なるに於てや、惡風惡俗の傳はるより速かなるは、孔子の耳を蔽ふに遑あらざるが如しと雖も、之に反して、道德、宗教の步み來るは、一歩の牛が、車十輛を牽くよりも猶遲し。これ恰も、西洋婦人の生理衞生上の一疾病に於ける、攝生的にさへ、充分に行届かれざるに、コレラ、なんどいふ、名さへ恐しき惡疫が、容易なく、彼より入り來りて、一時に、數千萬の人民を斃すが如し。

故に我國民の道德は維新以後、頗る頽落せしと、もとより其道理なりき。然るに其頽落の度の、現今に至りて、一層甚だしきを致したる點あるは、またその故あり。小人閑居すれば不善をなす、其有事なるを以てなり、天下太平なれば、民心衰ふ。彼舊幕の三百諸侯武士が、太平になれて殆んど武を棄て、其手に來鋒をかびしなど、其實例なり。之と等しく世上不景氣にて、人心萎靡する時には、また風俗いよいよ頽敗するの理あり。不景氣なれば、寄席等の起て騒出すと聞く。夫れ或は然らん。景氣盛んなれば、事業從つて多忙にて、物事面白く、惰心を起すにも餘裕なかるべけれども、不景氣となり人心弛廢すれば、ヤケ不平を起して、つまらぬ事を仕出かすものなり。抑も我國の日清戰爭後は、米穀は不作なり、金融は逼迫して事業振らず、物價また騰貴し、世上不景氣を極めて、人心また甚だしく弛廢す。此時社會は一層の頽落を來せしと、自然の數なり。

則ち、我等、今の社會を指して、何ぞかいはんや。其頽落、何ぞ然るや、如斯に甚しき僅に其一端を擧げ來らんか。世上に名ある人にして、殆ど、之を質はざるものなく、甚だしきは之を以て其體面を持するの條件とするものあり。而も、醜名を天下に謳はれて、之を恥とせず、世は廢せず彼を迎へて朝堂の上に立たしめ、或は傳聞嘖々たるものの、新に相位を得て、直に重大人なるものを迎へたるあり。社會に新勢力なき歟、實に之によりて知るべく、ウルク、ペーテルをして、此國に在らしめば、安ぞ彼木鐸の悲しきを見んや。我國民は、人を選ずるに徳性と品行とを分つの雅量あるものといふべきか。而もこの雅量は、國家の爲に災をなせり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

外人の我國を見るや、必ず先づ、其風光の奇麗なるを賞し、之に次ぐに、竊に淫慾を遂ぐるに易き國風なるを利とす。エドウィン、アーノルドなる不徳詩人に、日本の女色を謳ひて醜業女郎といふものとを外國に紹介して賞つて、政府は其功を賞するに勳三等を以てしたることさへあり。外人等の一たび制裁嚴重なる本國を去りて、日本に來るや、忽ち意馬逸して、淫慾に耽湎するもの多し、これ其便多きを以てなり、京都の如きに在りては、外人等竊に窃に來りて、他に隱れて、慾を滿すに都合よろしとなし、また其需要に應ずるの醜業婦多しといふ。悲しいかな、此山水明媚なる一千年の古都、これが爲に穢を受くゞとや。されど我國内はまた凡て此患あり京都は實に其好標本たるのみ。國自慢の癖に富める邦人は、いつまでも、「降るアメリカに袖はぬらさじ」との逸話を誇張すれども、洋妾の徒の、白晝、大手を振りて、開港場裡に横行するも、敢て意とせず、而もまた大膽なる我海外醜業婦の世界各地に遠征して、國辱を流しつゝ、遂に「支那人は世界に勞働者を供給し、日本は世界に醜業婦を供給す」との世評あらしむるに至りたるも、之を聞いて、單に珍事奇聞と聞き流すもの多きに非ずや。

我社會墮落の甚しき、細に事實を舉げ來らんこと、到底吾人の力の及ぶ處に非ず、商工業界、政治界の墮落は今更いはず、純潔なるべき教育界、神聖なるべき宗教界にして、其墮落の言ふに堪へざるものあり。墮落は、亡に陷るの道なり。されど邪惡極まれば、必ず變ず、國いよ〱危くして、忠臣顯はれ、世亂れて義人出づ、狀既に爰に至る、されば我邦は、自今墮落に重ぬるに更に墮落を以てせよ。然らば則ち義人の慨然憤然として起つありて、機一轉し、社會は清めらるべし。義人あり一人だに存せば、國は亡びずといふに非ずや。而も、亦、如今、各處に、墮落を嘆ずるの聲、多く聞ゆるもの、これ實に好兆なり。冀くは此聲ます〱大となりて、天地に鳴り響けよ、救は雲間を排いて降り給はん、吾人は亡びに陷るの道に當りて救に到る小き門の立てるを知りて、天に感謝す。

自警偈　　寶 茶 翁

夢幻生涯夢幻居　了知幻化絕親疎　貧笑方求病無足
進步一歩還有餘　[illegible]心[illegible]信自在　斜上如上境都如
吾儕倚得閑讀書　與落[illegible]標同大虛

女　學

名士の子物あるの原因

曲浦子

名士の子には愚物多く偉人物は二代とつゞかぬを通常とし、英雄も子には不仕合にして、かの大ピットの子に小ピットあり、正成の子に正行正儀ありし如きは、殆ど僅数にして、子の代に至りて、父の家名を墜すは、悲しき事なりといふべし。当今の名士にも、あまり父の名を揚ぐ程の子女あれとも見受けず　この道理は、世介子たるものに於て少しの才能の、決して他の遜色には劣らず、而も中には可なりの人物ありとても、あまりに、父の名望の高きが為に蔽はれて、却て実際よりは数段劣りたるやうに見受けらるゝによるにもあり
或は名士の子愚物多き所以を解釈して、名士家事に冷淡にして、家庭に於ける閑談訓諭の機に乏しくして、従つて感化力乏しきによると、また今の名士は大率ね皆、形の美人を娶りて、心の美人を娶らず、之が為に生るゝ子に愚物多しといふものあり。これは僅に其一因なり、而して凡そ子は父の感化よりもむしろ母の感化によりて人となるものなるに家に賢明なる妻なきに、賢児を設んとは、望外の至りにして、これ實に愚児を生ずるの最大原因なりといふべし。
或る因果論者はまた曰く、譬へば草木の、今年結實過多なれば、則ち明年は過少なるが如くに、此代に有名の人生るれば、次の代には、其反対として愚なる子ありと。これまた理あり。天則の循環相環する関係は、得て知るべからずと雖も、かゝるやうの事實はありくと行はる、されば自ら倹して子孫の為に、徳を蓄へ、智を貯へて、後代の大発揚を促さんとするは智者のなす處なり
されど以上原因の他に、更に一大原因あり。兎角名あるの人となれば、従つて家には召使の者も多く、また出入の者も夥だしきに、彼等は、其主たり、其従ふ處に諂ふの心を移して、其家の子女に阿り、我儘無理をいひても、黙してこれを聞き入れ、欲しがりさうなものは、先づ気を迎へて買ひ與へ兎角にチヤホヤと持て囃すより、彼等子女たるものは、我儘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自然で、好い氣になり、これが爲にアタラ寧馨兒をも、ほんの愚物にして仕舞ふなり。この大弊は、中流以上の社會に隨々として存在する事實にして、家に召使多く出入者多きは、子女將來の爲には、大なる不幸といふべし。幸に賢母あれば之を救ふ事を得ふべきも、さもなくば殆に愚物、馬鹿様のあるは止むを得ざるべし。故に前にもいへる、智者、自ら名を成さずして、子孫の爲に蓄ふとは、また此處の道理を曉れば なり。

されば今の名士に勸む。妻を娶らば、よろしく賢女なるべし而して、子を養はんには、別に召使も尠なく、奧や竈に媚ぶる輩の出入せさる別邸あるべし。他にまた事務處ありて、而して其處に在りてのみ、公私の人の接すべし、これ子女の教育とまた家庭和樂との爲に、緊要なる事柄なり。歐米の富豪または政治家の、必ず此處置をなして、内外を區別するは、智慮あるの致す處にして、名士諸君宜しく之に鑑むきなべり。

凡作レ事須レ要レ有二事レ天之心一
不レ要レ有二示レ人之念一
一齋

女飾の一理

かもめ

古へ女を敎ふるに、妻たるものは、朝夙に起きて化粧をなし容儀を整へて、夫の起き出づるを待つべしといへる一條ありこは頗る貴族的にして、迚も中流以下にては實行出來難き事とのみ思ひしが、此頃不圖、これに甚だ道理あるとを思ひ付きたり、凡そ女といふもの、日馴れし所爲か、多少の飾ありてこそ見易けれ、全く飾を徹しての女姿ほど視にくきものはあらじ。女子の裸體は天眞爛熳にて、美の粹なりとの說あれども、眞物の裸體は見られたものに非ず。かつて監獄の女囚を見しに、其中には美色あるものも必ずや尠からざるべしと思へども、かの柿色の筒袖に細帶をメめ、頭をもくじりたるは、見るも厭はしき姿にて、これには如何な男も、容易くは心を惹かるまじ、また工場の寄宿舍を見たるに、工女等が、赤裸々に打ころげたる姿は、これまた醜の醜なるものなり。女の湯上り姿は、美しといへども、其粧くたれ姿は、

見よきものに非ず　兎角女は多少の飾ありてこそよけれ、元來さやうにつくり成されたるものなるべし、年老いたる女の飾なきは、愛らしけれども、まだ年も壯んなるに、窶れたる姿をなさんは厭はし。

若き女も家持子持になると、世帶じみて、衣も形も構はぬやうになるものなり、男にも面白がられぬやうになる、男が女の世帶じみたるを嫌ふは、強ち其心の淫氣なるが故のみに非ずして、女にたしなみなき故になるなり、兎角、嫌はるれば、おろそかに成り易きものにて、女が男の爲に不和になるさ、男にあまり好かれぬやうになるものなり、美しきを喜び、愛らしきを慕ふは、人の自然にして、世間も男の女を娶るや、容貌りにて美しく、また愛らしき其容を認めたるに、早く品下りては、最初の好意の念の漸々に薄らぎ、其上に家庭に面白からぬ事でもあれば、詰れ女の自由なるに逢はさるゝものなり、されば古への人の、人の前には容儀を整ふべしと教へたるは、夫を愛する爲なるが故に、また夫の下に……し……人　天下の細君達よ、何れにも似合はぬ化粧に心を労さんよりは、

甚だ宜しからずと雖も、なほ相當の身だしなみをすることを忘れず、夫の前、人の前には、容儀を亂すこと勿れ　容儀を整ふるは、品格を持するの一事なるを思へ。如何に家持子持になりたればとて、必ずしも、世帶じみて仕舞にも及ばじ。

全國現在各種女學校一覽

現今や、女學校其數に乏しからずと雖も、女子教育に從事するものすら、なほ其名をだに知らざるものも多し。されば いま茲に各表を製して、其所在を示さんとす。これにて大抵網羅したるものなれど、されど未だこれを以て、現在全數を悉くせりとはいふべからず、なほ脱漏せるものもあるべく、且つ、名稱、位置等に於ても多少の誤謬あるべし、其材料は、教育の女學校につきては、本誌今年二月二十五日發兌第四百六十號に詳記したれば、これを參照すべし、此等諸校を區別して精細に記載するは、他の機會に讓れども、全數を示すの必要あり　且つ其府縣別なるは、前表と體を異にし、又先に讀まれる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

[illegible]、[illegible]たるを、[illegible]正したり。また左表の中にて、最も遺漏せりと感ずるは、天主教派の女學校なり。此種のもの開港場には必ず一校以上は存すべしと察せらるれど、明瞭ならず、爰にはたゞ知り得たるものゝみ收めたり。而して又、成丈小學校以上の程度のものゝみに限り、かつ裁縫學校やうのものを除きたれども、左表中には、なほこの制限に隨つて淘汰せらるべきものを存することなるべし。されば、讀者はたゞ之を以て概畧を示すものと見て、誤謬遺漏を發見次第、報告あらんことを望む。

● 東京府

◎華族女學校	(宮内省直轄)	東京市麴町區平河町
◎女子高等師範學校	(官立)	同　本郷元町
◎同附屬高等女學校	(同)	同
◎東京府高等女學校	(府立)	同神田區錦町一丁目
◎女子學院	(私立基督新教)	麴町區番上二番町
◎明治女學校	(同)	府下北豐島郡巢鴨村字庚申塚
◎普連土女學校	(同)	東京市芝區三田功運町
◎東洋英和女學校	(同)	同　麻布區東鳥居坂町
◎立教女學校	(同)	同京橋區築地新榮町七丁目
◎青山女學院	(同)	府下豐多摩郡澁谷村
◎靜修女學校	(同)	東京市麴町區中六番町
◎香蘭女學校	(同)	同　麻布區永坂町
◎駿臺英和女學校	(同)	同　神田區駿河臺袋町
◎頌榮女學校	(同)	同　芝區白金猿町
◎聖書學館	(同)	同　二本榎西町
◎宇宙女塾	(同)	同　麴町區飯田町六丁目
◎獨立女學校	(同)	府下新宿元角筈村
◎女子神學校	(私立希臘教)	東京市神田區駿河臺北甲賀町
◎女子語學校	(私立天主教)	同　京橋區築地
◎東京女學館	(私立)	同　麴町區三年町
◎久間高等女學校	(私立)	同　牛込區北山伏町
◎興風女學校	(同)	同　神田區駿河臺袋町
◎島海女學校	(同)	同　駿河臺南甲賀町
◎東京女學校	(同)	同　西小川町一丁目
◎共立女子職業學校	(同)	同　一ツ橋通町
◎跡見女學校	(同)	同　小石川區柳町
◎淑德女學校	(私立眞宗)	同　表町
◎女子文藝學舍	(同)	同　麴町區中六番町

計二十八校

● 神奈川縣

◎フェリス和英女學校	(私立基督新教)	横濱市山手百七十八番
◎共立英和女學校	(同)	同　山手二百十二番
◎聖經女學校	(同)	同　山手
◎捜眞女學校	(同)	同　山手三十四番
◎横濱英和女學校	(同)	同　山手三百四十四番

計五校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

● 新潟縣

(一)新潟縣師範學校女子部　(縣立)　新潟市
(二)長岡女學校　(私立)　縣下古志郡長岡町
(三)高田女學校　(私立)　縣下中頸城郡高田町

計三校

● 埼玉縣

(一)[illegible]女學校　(私立)　縣下[illegible]

計一校

● 千葉縣

(一)千葉縣師範學校女子部　(縣立)　縣下千葉郡千葉町
(二)中和女學校　(私立)　同

計二校

● 群馬縣

(一)共愛女學校　(私立基督教)　縣下[illegible]

計一校

● 栃木縣

(一)栃木町高等女學校　(町立)　縣下[illegible]
(二)栃木縣師範學校女子部　(縣立)

計二校

● 靜岡縣

(一)靜岡高等女學校　(縣立)　[illegible]
(二)靜岡女學校　(私立基督教)　同　[illegible]
(三)東海女學校　同　同　[illegible]
(四)靜岡女子技藝學校　(私立)　[illegible]

計四校

● 山梨縣

(一)山梨縣師範學校女子部　(縣立)　甲府市
(二)山梨英和女學校　(私立基督教)　同　[illegible]
(三)共立山梨女學校　(私立)　同　富士川町

計三校

● 長野縣

(一)長野高等女學校　(町立)　縣下長野町
(二)長野縣師範學校女子部　(縣立)　同
(三)松本高等女學校　(町立)　縣下松本町
(四)松本女學校　(私立基督新教)　縣下松本町蟻ケ崎

計四校

● 北海道

(一)遺愛女學校　(私立基督新教)　函館元町
(二)[illegible]和女學校　(同)　同
(三)スミス女學校　(同)　札幌區
(四)釧路女學校　(同)　釧路國釧路郡東町
(五)小樽女學校　(同)　後志國小樽郡小樽
(六)靜修女學校　(同)　同　[illegible]
(七)聖保羅女學校　(私立天主教)　函館區
(八)正教女學校　(私立希臘教)　同
(九)大和女學校　(私立)　函館[illegible]町
(十)青柳女學校　(同)　同　[illegible]町

計十校

● 宮城縣

(一)仙臺市高等女學校　(市立)　仙臺市

◎宮城縣師範學校女子部　（縣立）　同
◎宮城女學校　（私立基督新教）　同　東三番町
◎浸禮女學校　（同）　同　中島町
◎仙臺女學校　（私立）　同　市

計五校

●福島縣

◎福島縣師範學校女子部　（縣立）　縣下福島町
◎福島高等女學校　（町立）　同
◎會津女學校　（私立）　縣下若松町

計三校

●岩手縣

◎盛岡高等女學校　（市立）　盛岡市馬場小路
◎盛岡女學校　（私立）　同　市日影門外小路

計二校

●山形縣

◎山形高等女學校　（市立）　山形市
◎鶴岡高等女學校　（町立）　縣下鶴岡町
◎酒田高等女學校　（同）　縣下酒田町

計三校

●秋田縣

◎秋田縣師範學校女子部　（縣立）　秋田市

計一校

●青森縣

◎弘前女學校　（私立基督新教）　弘前市大工町

計一校

●京都府

◎京都府高等女學校　（府立）　京都市上京區土手町通丸太町
◎京都府師範學校女子部　（同）　同市
◎同志社女學校　（私立基督新教）　同　上京區今出川通
◎平安女學院　（同）　同　烏丸通下立賣
◎京都私立女學校　（私立）　同　御幸町二條下ル
◎尚德女學校　（私立）　府下山區紀伊郡上鳥羽村

計六校

●大阪府

◎大阪高等女學校　（市立）　大阪市北區常安町
◎大阪府師範學校女子部　（府立）　同
◎梅花女學校　（私立基督新教）　同　西區土佐堀裏町
◎プール女學校　（同）　同　西區川口居留地四十二番
◎浪華女學校　（同）　同　東區清堀
◎ウィルミナ女學校　（同）　同　西區山口居留地二十二番
◎女子傳道學校　（同）　同　西十七番
◎關西女子高等學校　（同）　同　中區道修町八百屋町角
◎相愛女學校　（私立眞宗）　同　東區本町四丁目
◎綜藝種智院　（私立眞言宗）　同　西區江戸堀二丁目
◎○○女學校　（洗名私立天主教）　同　西區川口居留地
◎堺女學校　（市立）　堺市東三町

計十二校

●兵庫縣

神戸女學院　（私立基督新教）　神戸市山本通四丁目

○松蔭女學校（同）同 中山手通六丁目
○婦人修藝學舍（同）同 下山手通六丁目
○傳道女學校（同）同 中山手通五丁目
○頌光女學校（私立天主教）同 居留地
○親和女學校（私立）同 下山手通七丁目
○日本女學校（私立基督新教）縣下須磨町寺町
計七校

●奈良縣
○奈良高等女學校（縣立）縣下奈良町
計一校

●三重縣
津市女學校（市立）津市丸之內
計一校

●愛知縣
名古屋高等女學校（市立）名古屋市[illegible]町
清流女學校（私立基督新教）名古屋市[illegible]町
金城女學校（同）同市
計三校

●滋賀縣
○[illegible]女學校（町立）[illegible]町
○私立高等女學校（私立）[illegible]町
計二校

●福井縣
○福井縣高等女學校（縣立）福井市佐佳枝上町
計一校

●石川縣
○石川縣師範學校女子部（縣立）金澤市
○金澤英和女學校（私立基督新教）金澤市上柿木畠町
計二校

●富山縣
○富山縣師範學校女子部（縣立）富山市
計一校

●和歌山縣
○和歌山市高等女學校（市立）和歌山市七番町
○和歌山縣師範學校女子部（縣立）同市
○[illegible]操裁技女黌（私立基督新教）縣下伊都郡橋本町
計三校

●鳥取縣
○鳥取高等女學校（私立）鳥取市東町
○鳥取英和女學校（私立基督新教）同
計二校

●島根縣
○松江市高等女學校（市立）松江市母衣町
○島根縣師範學校女子部（縣立）同市
計二校

●岡山縣
山陽女學校（私立）岡山市外三番町
○玫瑰女學校（私立）岡山市弓の町

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎順正女學校　（私立基督新教）　縣下高梁町

計三校

●廣島縣

◎廣島英和女學校　（私立基督新教）　廣島市上流川町

◎廣島高等女學校　（私立）　同新川場町

計二校

●山口縣

◎毛利高等女學校　（私立）　縣下山口町

◎豐浦女學校　（私立基督新教）　縣下長府町

◎光城女學校　（同）　縣下野田町

◎德山女學校　（私立佛教）　縣下德山町

計四校

●香川縣

◎香川縣師範學校女子部　（縣立）　高松市

◎私立香川縣高等女學校　（私立）　同　中六番町

計二校

●德島縣

◎德島縣師範學校女子部　（縣立）　德島市

計一校

●愛媛縣

◎松山女學校　（私立基督新教）　松山市二番町

◎愛媛高等女學校　（私立）　同　一番町

計二校

●高知縣

◎高知高等女學校　（私立）　高知市帶屋町

◎高知縣師範學校女子部　（縣立）　同　市

◎高等英和女學校　（私立基督新教）　同本町

計三校

●長崎縣

◎長崎縣師範學校女子部　（縣立）　長崎市

◎梅香崎女學校　（私立基督新教）　同　東山手

◎活水女學校　（同）　同

◎スチール女學校　（同）　同

◎玉の浦女學校　（私立）　同　新大工町

計五校

●福岡縣

◎福岡縣師範學校女子部　（縣立）　福岡市

◎福岡英和女學校　（私立基督新教）　同　天神町

◎久留米高等女學校　（市立）　久留米市篠山町

計三校

●佐賀縣

◎佐賀縣師範學校女子部　（縣立）　佐賀市

◎實習女學校　（私立）　同松原町

計二校

●熊本縣

◎熊本英和女學校　（私立基督新教）　熊本市

◎尚絅高等女學校　（私立）　同　昇町

◎女子學習舍　（同）　藪ノ内町

計三校

●宮崎縣

宮崎高等女學校　（縣立）　縣下宮崎町

計一校

●鹿兒島縣

鹿兒島縣師範學校女子部（縣立）　鹿兒島市

鶴嶺女學校　（私立）　同　平之馬場町

鹿兒島女子徒弟興業學校（私立）　同　易居町

鹿兒島女學校　（私立基督教）　同　市

計四校

●台灣

淡水女學校　（私立基督教）　臺北淡水

臺南女學校　（同）　臺灣臺北

計二校

▲總計百五十八校

依て以上を其種類に區別すれば左の如し

華族女學校	一
女子高等師範學校	一
官公私立高等女學校	三〇
他の公立女學校	二
尋常師範學校女子部	二一
基督新教女學校	六五
天主教女學校	四
希臘教女學校	二
佛教女學校	五
其他の私立女學校	二三

評論

學者政治

政治と云ふものにも、學問と實地との二つがあつて、矢張り外の事と同じく學者は迂遠なものである。然るに、外の事となれば、學者迂遠の説を尤もと思ふ人もあるが、政治の事になると、今もつて學者を尊とぶの風がある。あの人は、西洋の政治思想が無いと言へば、一も二もなく價値の無いもののやうに思はれる。之は甚だをかしな事である。呉服屋の番頭に、西洋思想が無いと言つても左程笑はない、會社の社長に、議論の本が讀めぬと言つても左程怪しみも爲ないが、政治家と言へば、政治學の本が讀めねば文明政治の役には立たぬもののやうに思はれる所が、如何にもをかしい。何故に、政治の事のみは、左様に學者を尊ぶ乎。政治の實地を知らぬと云つて批評するものは未だ多くない、政治の學文が無いと云つて是非するものが甚だ多いと云ふは如何にも分らない。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之は必竟、政治と云ふものに付いての觀念が未だ開けぬからの事であらうと思はれる。

◎政論をするものの議論は昔から立派なものだ。然し夫が實地に就いて見ると、大抵、役に立たぬ。山を出てからの謝安は、いつでも不評判なものだ。抑も、政治と云ふものは、十の九分迄は俗務で、所云ゆるビヂネスに過ない。但だ、其の事務たるや、當局者の私を棄てゝ、全たく國民の都合を計る一つの事務たるに過ぬとゆゑ、ビヂネスに通有の道筋で、議論や論理によつて決すべきとは太だ少ない。偶ま謂へる所は、常識、人情、の類で、必ずしも精細の學理では無い。夫故、政治の實地に當つて之を善くするには、人世の波瀾、情合の變化、愚婦愚夫の心もち等に精しくなければ成らぬ。たとひ、西洋の憲法は如何で、外國の政躰は何のやうであると云ふとを明細に承知したからとて、實地の政治には左程の効能はないものである。

◎尤も、一代に一人や二人、政的天才と云ふものが無ければならぬ。之は又格別の人物で、當代の趨勢を通觀し、世界の流れを酌み、天文人情を兼ね知りて、あらゆる國力器關の調和、交渉を一妙に利導し得るやうな質の人でなければならぬが、之は多くあるものでない。又、其の運用の妙は、天稟に出づるとで、機に適したる活手段を施こすべきとゆゑ、固より紙上に論ずべきでもない。夫は別の事として、實際政治に施して、國利民福の爲めに仕事をする其仕事の九分九厘迄は、一つの俗務に過ぬと云ふのである。

◎左れば、昔から、善政を布いたものは、皆な、實地の經驗があつて、其の事務的の工夫から盛り出したもので、決して學者では無い。學者は只だ其の參考として用ゐられたもので、なか〱今のやうに、學者だから即はち政治家だと言はれるやうなものでなかつた。

◎先づ、藤原氏の頃から、ズット大躰を御覽なさい。藤原氏の起りは、英傑の統一政治で、全國を郡縣同樣にして治めて居つたが、追々尾大掉はざる形勢となり、何々の守などと云ふ縣令は、縣に赴かずして都に引き住まつて居るやうになつた。第一、田舍で不便でもあり、又行く丈けの用も無いから、其下役人丈けを送つて置たのが、途中で租税をくすねたり、賄賂をとつたり、金を貸して土地を兼併したりして、追々大

きくなつた。何の莊司だとか、介だとか云ふものが段々見立つて來るやうになつた。彼等は皆な其の家の子、郎黨を養ひ、部分内の仕置に注意した。少くとも多少の政治と云ふものを實地に施して見た。夫が大きくなる頃には、余程、政治上の經驗が出來た。

夫れで、鎌倉の起つた頃には、所々に源家の恩顧になつた豪族が居つたが、中にも北條氏は、數代政治に苦心して、余程、巧妙のものであつたから、其の當時の經綸をもつて六十余州を立派に治めた。大江廣元などは、幕府の中では、政治家らしい人であつたが、北條氏に取ては、矢張り一種の政治學者として、參考に用ゐられただけで、北條氏の政治の主動力となることは出來なかつた

其北條氏に次いだる足利氏なども、京都に於ける幕府としての經驗はもとより、其後いよ〳〵總理大臣となる迄に、余程實際政治の經驗を積んだ　織田氏に至ても中々のものであるが、獨り豐太閤に至ては、其家に從來の經驗と云ふものはなかつたが、此の時代の天才が、當時の戰略や、治國策や、政略より段々に積上つた實地の經驗と云ふものは、人數代の經

驗にも優つたることであつた。

◎徳川氏に至ては、家康以前すでに三代の名君もあり、政治上の老功は最早や家ゆづりであつた。其上に、武田や、北條の政治に鑑みて、色々に工夫をした。天海や、崇傳などを幕僚にはしたが、之れ學者として參考に供した方が多い。徳川の家風では、坊主と學者とには政治に喙を入れさせぬと云ふほどであつた。

◎ソコで考へて見るに、徳川氏の後を受けた第一維新の人々並に、第二維新と云はれる今度の內閣の人々などは、昔より今日に至る迄で、凡そ新政府を引うけた人の中での一番の學者であらう。其の代りには、此の人々ほど從來實地の政治に經驗のなかつた人はあるまい。明治以來幾多の新內閣はあるが、之ほど實地に無經驗の新政府はあるまい。西郷先生が郡役所の書記をしたり、大久保甲東が、お側役を勤められたほどの事で、かゝる大隈伯さへ、政治には先づ無經驗の方であつた。然し乍ら、サスガは政治的天才であるから、學者の說によつて政治を爲るやうな事はない、嚴然として一大本領を守り、政治として一大經綸を施さるる所があつた。學者は＊

ツノ参考に用ゐられた丈けの事である。

◎然し、其後の政治は、殆んど、學者政治と言はねば成らぬ。人民の心に納得しやうが爲まいが、將來の政治に接續しやうがすまいが、其邊には一切頓着なく、ズン〳〵翻譯的の法制を布いて、紙と文章との上から政治を行ふと謂ふ體裁であつた。

◎然るに、之が左程に不評判でもなく、又不評判なりとて、其の批評の眼目が今もつて其の實際的ならぬことを非とするのでもないと云ふは、如何にも奇妙なことであるが、之は思ふに二つの元因がある。一つは、維新の勢ひも、又維新以來の大勢も、たゞ〳〵西洋に倣はうと云ふことにあつたからして、倣ふに付ては、西洋の事を知り、西洋風に學問し、西洋風に處置するのが善いやうに思はれて、人皆な其の大流行の中に呼吸したゆゑに、大抵人々が之に氣付かなかつたのであらう。之が其の一である。更に一つは、實際、政治の要緊に外れ、實效なきことを言ふものがあつても、其やうな人は一概に古風と言はれて人の耳に這入らなかつたのであらう。

◎斯して、明治政府の政治は學者政治である。更に酷に言へば、書生政治である。書物の上から學問した人の政治である。讀書社會には彼此と注意される政治である。然し乍ら、實際の世間、家もち、店もちの主人、正直に農工商の職業を爲す人々、愚夫愚婦の仲間などには、一向、譯の分らぬ、少しも感心する所の見えぬ政治である。夫で、いろ〳〵に政治器關の改正があつても、實業實益に大したる利益のなき政治である。斯の如くして、學者政治は三十年間の評判ものとなり、今また、第二の學者が政治を取ることになつた。然し乍ら、學者と云ふものは決して政治に力のあるものではないと云ふことを明白にするのが、多分、之からであらう。所云る政治學者が幾變遷の内閣を交迭させても、夫で實際の政治には左程、影響せぬと云ふことを明白にするのも亦た之からであらう。左樣なつて、初めて政治に關する智識が開けると云ふものである。今のやうな政治學者本位主義は、寧ろ政治觀念の幼稚なることを證するものである。

さしなへし君の衣のくちはてゝ

袖にかすべき片袖もがな

教　育

教育警察の用

井　草

今の警察には行政、司法の別あり、然るに現今社會の進歩發達の為、特には、教育社會目下の需要に應ぜんが為に、吾人は警察制度の一層擴張せられて、茲に教育警察なるもののあらんことを希望す

警察は固と社會の安寧秩序を保護するを以て任務とすれば、即ち、少年子女の教育を保護するを以て、一任とするの要あり

凡そ警察の務は干渉に在り、教育は此干渉を受くべきものに非ずと雖も、其保護は、喜んで之を受くべく、今の時は、特にこれを必要とす。

教育には三方面あり、家庭、學校、社會これなり。子弟は此三方面に於て同時に教育せられざるべからず。子女、家庭に在るや、父母之を保護し、其學校に在るや教師の責任に在り。然るに彼等の家外校外に出で、社會に在るの時は、誰か之を監督するものぞ。吾人は此責を以て、警察に附せんことを望むものなり。

父母教師の感化、よく子弟の精神に感染して、啻に、家内校内に於て有效なるのみならず、校外に於けるもはた家外に於けるも、同様の效力あらんことは、即ち教育本來の理想となすと雖も、其實家庭及學校と社會とは、自から範圍の寛狹を異にし、また誘惑の度に差あるを以て、就へば家庭及び學校に在りては、父母教師の訓戒能く行届きて、喫煙をなさざるべし、飲酒もなさざるべし、其他の悪戯も行はざるべし。然れども、彼等が一度び、一歩を家外、校外に踏み出さば、最早父母教師の目の届かざる所に、社會は、幾多の誘惑物を具して、彼等を迷はさんことを勉め、此際、思想未だ薄弱なる彼等は殆ど其誘惑を免るゝこと能ざらんとするの危險に瀕しつゝあるなり。茲に至りては、社會の安寧秩序の為に、四方に眼を配れる警察の手に依頼して、彼等の保護を乞はずんばあらず。而も今の如きは、家庭學校の感化、既に内に遍からず、何ぞ外に其力を及ぼすべけんや、父母教師たるもの、子弟教育に對する自家の責任を守ること能はず、内外に於て子弟の撲

範たると能はず父母にして亂行を子女の前に逞ぐるあり、剰へ教師にして、校外に生徒を見ると、恰も途人の如く、甚だしきは彼等の目を盜んで、面白からぬ舉動をなすものさへありと聞く。概するに今の教育には、家庭及び學校の感化甚だ微弱なるを最大弊となす。而して加ふるに社會の風俗は日々に頽廢し、此間に處する少年子女の周圍には、誘惑物蝟集せり。爰に於てか吾人はいよ〳〵益々、校外、家外に於て警察權を以て子女を保護するの必要を感ず。

家庭及び學校に在りては、子女は父母教師の監督區域に在り、警察の之に干渉するは、素より望むべきの事に非ずして、これ實に父母教師たるものの反省を促すに非ずんば、教育の効力また薄し。されど社會は警察の監督區域に在り、此區域に於て十分に子女の行爲を取締りて、父母教師の注意を惹き起すは、即ち彼等の反省を促すに効力ありて、家庭及び學校の教育に益あり、是一擧して三得する所以たらん。而してこれが爲に、教育の經驗あり、また其思想あるものを警吏に採用するとに於て、大に益を加ふべし。

彼往來の板塀、塗塀等の樂書は、十中八九、卑猥なる圖畫文字にして、此等は最もよく人目に觸るゝ處に在りて、頗る少年子弟に害あり。然るに此樂書をなすものゝ、即ち學校に通ふ子弟に多きは、歎すべきの事實にして、以て彼等の道德心を判ずるに足り、而も社會一般の風俗に害あり、且又國の體面に關す。警察は、たとひ教育上の意味に由るに非ずとも、進んで之を取締るべき筈なるに、未だ其然るを見ず。吾人は警察に向つて之が爲に三省を促し、今爰に新設を希ふ教育警察に由りて極力之を取締らんことを望まざるを得ず。

少年の喫煙は健康に害ありて、而して此弊風次第に增長するを以て、文部省に於ても、之が禁令を發布するやの噂ありしが、父母教師にして、心を用ゐなば、家内、校内の制裁は成就せんも、外に在る時までの取締は如何はし。されば之を禁ぜんとせば、内外同時に行ふの要ありて、これまた警察の力を借るの要あり。

かの大道端の廣告のごときも、兒童の教育に害を與ふるもの、甚だ多し。警察は宜しく、之が取締をなすべし。又或は少年子女の父兄にも誘はれずして、飲食店に上り、寄席、芝居等に入るとも、また警察權にして、初めて之を取締

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ることを得べし。其他家外校外に在りて、凡て不都合なりと認むる子女の行爲は、警察よく之を取締りて、而して之を父母教師に通告すべし。而して吾人の望む處は、教育警察のなす處は、成べく、取締の點にのみ止めて、制裁はこれを父母教師に任せんとなり。

以上は小學生徒を標準として立論せるものなるが、中學以上の學生に至りては、教育警察の監督を要すること更に大なるものあり。中學以上生徒の放縱亂行なるは、小學生徒の亂行のなは無邪氣なるに反して、既に邪想の性質を帶び、而して彼等の徒は、父母教師の訓戒も馬耳東風に聞き流して、其效なく、而も巧みに彼等の目を盜む。或は淫猥放蕩に耽り、陰謀をなし、現に學生の賭博犯を以て拘引せらるゝもの、近時頗る多しといふに非ずや。此に至りては、彼等の行爲を監督するが爲に、更に警察の權を假るの可なるを見る。其警察權は、即ち教育的なるべし。たとひ不正の行爲、犯罪に至るも其輕きものは、法律を以て、之を處分することなく、之を學校に引渡して、相當の制裁を加へしむべし。もしこれを法律によりて處分するときは、これが爲に其者の一生を傷くることとなり、教育上庇ふべき事に非らず。

既に論ずるが如くに、吾人の教育警察の設置の必要を感ずるや久し。而して先般、視察漫遊の際、大阪府廳に、前警部長鈴木定直氏を訪ふや、氏語るに、目下の風俗頽廢の甚だしきに感ずる處あり、之を治すると先づ教育に由らずんばあらざるを認めて、大阪市の中學以上諸學校長を招集して、校外における生徒の行爲は、警察權を以て嚴重に取締り、彼等行爲の罪すべきものも、其輕きは、これを學校に引渡して處分せしむることとなせしに、次いで諸小學校長も、進んで此取締の下に在らんことを要求したるが、爾來、これが結果の見るべきもののあるを以てしたると、前號視察記事中に記載したるが如し。氏の施設、圖らずも大に吾人の素志も契合して、甚だ之を喜び、他地に至りても、機あれば人と之を語りて、其有用を說きたり。岡山に警部長六角耕雲氏を訪ひたる際にも此說を以てしたるも、氏また既に此處置に志あるを告げたり。大阪にては其後鈴木氏職を辭して去れり、爾來これに對する處置如何を知らず。

然るに教育上に警察權を及ぼすに就きて、第一に反對するも

のは、教育家なり。彼等は之を以て教育上頗る不見識の事にして、かつ彼等の體面を損するものとなす。或は然らん、されど、彼等の感化力の薄弱なると、今日の如くにして、而して、なほ自家の體面の爲に、保護監督するものもなきまゝに、諸誘惑の渦中に、兒童學生を放棄せんとするか。彼等は現に今日、學生風儀の頽廢を以て如何ともすると能はざるに非ずや。彼等の見識と體面との價値は、世は既に之を知る然るに之を假飾せんが爲め勉むるの愚や笑ふべし。抑も警察は社會を保護するが爲めの、一器關なり、世にたゞ犯罪者を捕縛するのみを務とせんや。されば現今の教育界刷新の爲に、之を利用するは、これぞ却て見識ある處置に非ずや。而もまた教育の三方面より觀て、教育警察の、大に有用なるを見ずや。

吾人は世上の教育家に向つて、教育警察の有用を察せんとを望み且又内相文相の鋭斷以て、速にこれが施設を成さんとを冀ふ。教育警察の用や大、而して其施設方案に至りては、別に考究を要す。吾人はたゞ其用を論じて、世上の注意を促すのみ。

教育の緩急

長汀

子女を教育するに當りて、諸事緩やかなるに過ぎ、また放任に過ぐれば彼等は、我儘放埒となり、遂に無用の愚物となり、父母自ら後年の悔を殘すに至らん。感化院兒の統計によれば、其最も多きは、父母なく、親の情愛を解せざるものなりと雖も、亦愛に溺れて育てたるものも甚だ尠からずとかや。エミール的放任教育は、ルーサウの主義なりと雖も、これによりて成長したる小兒の行末は、社會に出でゝ、人交りも出來ぬ、不躾者、はた頑剛者となり了るべきのみ。されば子女の教育に、緩に過ぐべからず、然りと雖も嚴に過ぎたるもまた後害多し。教育上緩急の度を知るまた難いかな。

世には往々、思慮あり學識あり、殊に道德ある父母にして、其子を教育すると、嚴なるに過ぐるの誤あり、古へは儒者の家庭に此弊多かりき。儒者は孔孟程朱等の學を奉じて、彼小學内外則的の嚴格毫も假借せざるの底の教育を、子女に強ひ、自からも亦、子女の前には、白い齒も見せず、寢そべつた

姿も見せぬことを理想となすの風あり。而して儒者の家は、多く放蕩の子を出す。彼頼山陽は、春水の厳格なる家庭に育ちし児なり。然るに彼の青年時代は、放蕩無頼の汚點を以て蔽されたるに非ずや。また宗教篤信家の子弟に、堕落兒少からざるは、これ父母が朝な夕なに神佛の難有きをのみ、言ひきかせ、其事は頗る形式に流れ易く、子女は絶えず之を耳に仕馴れて、格別に神佛の貴さも分らず・之を敬して遠ざせず、習ひ性となりて遂に確信なき父母の眼より視れて、此仕末となるものなり。宗教學校より篤信なる教徒の出づることの尠きも、また之に類す。

教育者は少年及び青年の心あるを忘れ、大人の心を以て彼等を調するは、若者皆に纏ぐに、老いたる頭を以てするものなりとの説は、屢々教育者に於て之を聞く。然るに教育者よくこの秘訣に成功すること稀なるは、則ち其理を知りて、未だ其實を得ざればなり。たゞ自ら竊に己が年若かりし時代の事を回顧し、彼様の事もありたり、此様の行もなしたり、今の諸生に同様の行爲あるは無理ならぬ事と、大目に見、扨て其事の悪しければ、則ち夫相當の方法に出でゝ、校に取締るべきなり。凡人の若者を見ると、かゝる事は若い中にも有勝の事なり、自分にも然りしといひて、相當の待遇をなすは、自から其理を得たるものといふべし。教育の道は、子弟に大過なからんことを要とすべく、他は自ら開悟啓發するの時を俟つべし。此時未だ來らざるに、強いて注入せんとするは、害ありて益少し。

茲に語りて思ふ、今の國家主義と稱する教育者等が、日々に故人の嘉言嘉行を以て、子弟に授け、愛國忠君敬佩等の語を常に教場に繰り返すと、これまた緩急の度を失して、彼儒者及び宗教家等の過ちを行ふものなることを。況んや忠孝節義の事實は、消極的なるを以て、教育の要とする積極的の開導をなすに益なくして却て損ずること多し。忠孝節義を耳にする子弟は、國危く、家貧に、君父亂なるに非ずんば、彼美點あり得べきに非らずと誤信するを免かれず。然るにこの誤信の際を看過して、子弟に對し、一刻も忠君愛國の念を忘るゝこと勿れ。彼美點を提起せよといふ。然るに少年子弟は、唯だ忠君愛國の四字を記し得るものに非ず、たゞ之を空語として、形式的に記憶して、教師の問に答ふるのみ。教師

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はまた形式的空語の答案を得て、滿足し、而も之によりて、子弟の忠君愛國心を分量するもの丶如し。これは即ち所謂少年の肩に繼ぐに、老人の首を以てするの教育に非ずや。彼等は消極的倫理の嚴格なるものを以て、強いて子弟の上に臨むものなり。教育の道素より以て得たりといふべからず。今の所謂國家主義の教育には、諸弊あるが中にも、この緩急其度を失して、彼嚴に過ぐるの害に至りては、最も憂ふべしとなす。

また此頃小學校等にては、教案なるものを前以て調製して、學年中、此日は何を教へ、次の日は何を授くべしさ、切詰細工的に教授法を定むるよし。これまた教育上、緩急の度を失するの一種にして、甚だ宜しからぬ事なるに、世の教育者等は、却て法を得たりとなすもの丶如し。兎角に現今の教育は、日を追ふて器械的に流れ形式的に失するの傾向あるは、痛嘆に堪へず。聞くならく、今の文部省、學政改革に志ありと。さらば則ち、以上述ぶるが如き、弊害の根抵を突いて、之を根除するに最も急なるべきなり。

文相初發の着手

人皆な頸を延べて待つ、文相、初發第一等の事業如何と。今や則はち慨然にして幼痴なる幾多の訓令を全廢し、所謂る鉗口政略の悪癖的手段を一刀に斷絶したり。就中、其の説明書なるもの、近時有數の文なり。莊重卓麗、まことに文相にふさはしき言辭とす、左に轉載して、教育界一進歩の紀念となさん歟。

教員生徒の集會言論其他取締に關し從來本省の發したる諸達訓令中爾後法律の制定に依りて其用を見ざるに至れる者あり或は時弊を矯正せんが爲に發したる者は時勢の推移と共に今は其必要を認めざる者あり間又多少の必要を認るものなきに非ずと雖多くは特に本省の訓令を俟たず當然地方長官學校長教員の責務にして其分内に屬すと思考するが故に總て之を廢止せり凡そ學校長教員たる者は其重大なる職務と高尚なる地位とを顧念し生徒の薫陶に專心なるべきは勿論猥りに上司に反抗し公衆を挑撥し其本務を忘れて政事に狂奔する等の擧動ある可からざるは言はずして明なり又學校生徒たる者尙ほ學び且敬ふの第一義を忘却し徒黨して學校長教員に對し強迫の擧動をなすが如きは畢竟訓育の實未だ完からざるに起因す地方長官たる者學校長教員を督勵して其の實効を責むべく尙ほ不良なるものあらば校規に照らして處分せしめば足れり之を要するに從來の諸訓令を廢止するは地方長官學校長教員の位地責任を重視し特に訓令を存するの要なきを認めたるによる

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

雜　　錄

斷腸の記

（亡弟を悼ふ）

おうそむ

世には思ひ設けぬ事の多かるものかな、吾、去に六月の九日といふに、西の國の方に、女學の視察かた〴〵、女學校をも訪はんと出で立ち、まづ暫くは神戸に留まりありしに、圖らずも、我雜誌の奇禍に罹れりし使に驚きしも、さしたる事ならねば、心の障りもあらで、諸處奔走せしに、十八日となりて、大阪に約せし事のありければ、一先、彼處に立越えたり。あはれ六月十八日、此日には、我家、我身の上に、とり返りがたき歎きの降りかゝりしものを、旅なるからに、われの何と知るべき、たゞ旅行人にさあれかしとのみ祈れりしとぞ悲しかりける。

筆もつことに鈍き性とて、此頃、旅に出でゝも、國許へは、在處さだかに、知らさで打過ぎしが、大阪に來りしや否や、心穏かならぬ節のありしとにてはなけれども、端書して、父母に使せしは、たゞ我が安きを知らさん爲にて、返り事にいとゞ悲しき事をきかんとは、ゆめ思はざりき。

それより二三日が程、人々を訪れまゝに、宿りを借りし大仁村なる阿波氏の家を出でゝ、二夜は友許に暮しつ、廿三日の夕つ方、大仁村に歸りしに、國許よりの便りとて、二葉の端書を取りき。一は弟より、他は友よりのなりき。忠淳小學校にて十八日午後一時死去せり、直に岡山、福山へ、電信を發せしも、いまだ其方へは赴かれぬ由にて、空しく歸電せり、現在處いよ〳〵知れねば、東京まで問合せしに神戸にあり、知らすべしとの電報にて、ありければ、最早便りは聞かれつらん、あまりの變事にて、一家歎きに打しづみ、慰めんやうもなし、速く歸省あれかしとの事なり。驚くといはん方なかりし、何となく夢事とは覺えざりければ、涙もとみには催されず、悲しさも知られぬ程なりき。東京を出づる前に、便して、神戸には二三日留まりたる後、岡山、福山へ廻りなん、彼處にては何某方へ使せばよからんといひ遣はせしまゝなりければ、國許にては、日取繰りて打電せしな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れ、また如何なる行違ひなりけん、都よりの知せといふも來らざりければ、たゞ安き心のみして、日を過せしものを悲しきかな十八日の便は、此悲報を傳へて返り、而も最愛の骨肉逝いてより六日にして、はじめて訃を聞かんとは、家に憂ある ごとに旅のまゝならぬを知るに、まして此の如きをや。されど、こはたゞ旅なるゆゑのみにはあらず、便を怠りし罪にて、親同胞の歎きをも知らで過ぎけるこそ悲しけれ。

逝きしものは、遂に還らすべからず、悲しき便を得て、いそぎ、國に歸らんか、幸に其近くまで來つることなればと思ひしか、扨て今更何とかせん、家を辭してより既に四年ばかり、されば いま歸省せんには、容易は出でらるべくもあらず、ましてこの不幸の折をやと、志ざす方に忙はしかりければ、覺束なき返事のみして、また奔走に日を送りしが、目のあたり歎きを見ざりしと、忙はしかりしとにて、未だ深く悲しむの思ひも起らざりしも、心の重さはこれを如何にせん、人に慰められては、はたと打しづみてけり。

都に在る折ならば詮方なけれど、今は大阪に在り、これより、故郷の松山までは、僅に一日ばかりの旅路なり、迚ものの事に、一先立かへりて、親はらからを慰めんにはと、其心になりて、廿七日に中國を經て、途に就きたり。滊車の窓に、夜は更けて、客室人靜かなるに、我夢は結びがたく、曇れる空に、たま〳〵燦く星影を眺めては、父母は同胞はいま如何にましますらん、さても忠淳の身まかりしとは眞か、此程我の西の國の旅に出でたれは、折もあらば歸國の事もありぬべしと思ひつゝ、日頃わけてわれを慕ひし彼なれば、さぞや相見みんとをたのめにて、何日にかとばかり待ち詫びたりけんに、そは空となり、今はたゞ亡き跡を弔はるべしとは、いかに果敢なき身の幸ぞや。かへりたりとて、何とか父母を慰めまつらん、我さへ慰られ難きものをと、憶ひては、思ひ、忍び音に涙すゝりて、拭ひもあへず、思ひ勞れて、暫時まどろめば、曉方に廣島に着き、それより宇品に赴きて、船に打乘り、四時間の浪路の上恙なく、三津濱に着けば、近く望む、古城跡は昔にかはらで、遊子を歡び迎ふるに似、山川の形容依然として舊なりとても、歸らんとする我家には禍あり、我は同胞を喪へり、生ひ立ちし故郷の天地は、悲しみの霧に包まれたりと覺えけるもわりなしや。

家にては、偶に我の歸り來せしよとて、喜びの中にもさき立つものは涙なり。同胞等、憂きを忘れて、我を迎ふれども、この中の一人はまた終に見ることを得ず、共々に悲しみ歎くの外なりき。さきに便ありし時には、急病とのみにて、何の病のかくは無情く、彼を奪ひけんとも知らざりしに、聞けば、腦充血なりしとか、さるに醫師さへ心ゆるせしものを、誰ありて、偶にこの變事あらんとは思ひよらざりしとか。長き病に打臥して、望の絕えたるものすら、いよ／＼臨終となれば、惜まるゝものを、ましてこれはげに突然に生を奪はれたるに似たれば、歎きは更に盡きず、慰めんとて驚き、父母の悲みは、如何に之を慰むべき。われは歎きを包みて、喪服をなでんど、一間に入れば、あはれ、生ひ先多かりし我弟は、一片の位牌となり果てゝ、其處に祀られたり。

思淳は今年十四歲を迎へしまでのことにて、彼は我第三の弟なり、最早來ん春には小學を卒へて、中學に入らんことを樂しみて、幼き者には珍らかなりしとぞ、生れて溫和なる性なりしかば、よく父母に事へ、妹をいたはり、此程は學校より歸れば、鷄を飼ひ、カナリヤに餌し、金魚の水をかへ、庭まはりの掃除、戶締りなど一手に引受けて、おのが務となし、其上諸方への走り使をなして、嘗て怠らざりしかば、父母は、よき助けと喜び、やさしき者なれば、あはれなる妹の行末を托さんものは、此兒よと窃に頼みしとかや。常ににこやかなる顔に笑ふくみてゐたりければ、他にまさりて人々に愛せられ、我家の大黑様と渾名せられしとぞ。散步の時にも、多くは一人せで、二人の妹を誘ひしと。世に在るとの短からんとて、かくは、やさしかりしものか、かほど愛らしき者の今亡き跡の悲しさは、何にたとふべき

彼は物事につゝまやかにて、書物詩書または玩具など、丁寧に箱筒の裡に仕舞おく慣なりしが、彼は此等を打捨てゝ身まからんとは自らも思はざりしを。病につきし時は、恰も試驗の了りし後なりしとかにて、なやみの中にも、成績を氣にし、幼弟の其答案を持ちかへるや、點數の多寡をいひて、之を枕元に置きて喜びたりとなん。學校にては成績常に宜しく小團長とかいふ役にて、同級の上に立ちければ、葬には、教師生徒を引つれて會し、また初七日には、七十人の朋友、墓に詣でたるなど、あるは又、教師が、偶に席を欠きし此兒の生

前を、牧場に踊りて、他を勵ましたりなどいふを聞きては、骨肉はいよ〳〵歎きに耽るゝのみなり。

短かき煩ひなりしかば、肉も衰へざる亡骸を柩に收めしとき、髮を理へ、筒袖を着せ學校帽を冠らせたるは、宛ら生ける儘にて、母は此世の名殘とて、自からかき抱きて納めたる由にて、其事を屢々語り出でゝは、母は絶えず、涙にむせび、父母が歎きの繰言は止むるに便りなし。我は多年、家を離れて、臨終の折にも會はざりしかば、情自から淺けれど、共に育らし同胞の歎きに耽るゝ哀れさ、兄は我家の清水汲み取りて、遠き華を捧げんといひてやまず、弟は腕白なるにも拘らず、靈前の水の、暑さに溫まるを氣にして、更へては更ふるを勤とせり。彼は朝毎に共に學校に通ひし兄を失つて、淋しさを喞ち、兄は弟に別れてより、課業も樂しからずと煩ひ、朝夕に門を過ぐる生徒を見ては、父母は彼の亡きを悲しめり。彼の死せしや、あまりの歎きに、家内殘る者なく病の床に打臥せしといひ、我がかへりし時にも、父はなほ床の上に在したり。

・さきに我の彼と別れし後は、如何ばかり丈延びておとなびたりけん、知るよしなく、はや十四なりしといふに、これよりいよ〳〵賴み多くなりしものをと、惜しめども甲斐はなし。我の八歲なりし時、一人の弟は五歲にて果敢なくなりしが、其時は未だ悲しみを曉らず、弟妹は素より彼を知らねば、今忠淳の逝きて、皆初めて骨肉に分るゝの哀しさを知り、父母は、また、やうやく育て甲斐ありと思ひ初めたる者を喪へる、我家のなげき、人は思ひやれかし。紀念の寫眞を開きては、また閉してなげき、在りし世の事を聞きてはなげき、哀しみの中に、用ある身の一週あまりを、家に暮して、出立つべきしほどなく、慰めんとて歸りしものを、却て自ら歎きを重ねつゝ、たゞ僅に、過し年都にて、重き病に罹りし後、初めて父母に見えて、思ひの外に健かなるを、一つの慰めとし、心籠めたる待遇に、愛せしものゝ在らぬを悲しみつゝ、遂に七月六日といふに、皆人を歎きの裡に殘して、再び旅に上りたり。それより中國を經て、廿日あまりの後に、貌には望みに滿ちて出でし都に、いまは愛を抱きて歸り來りぬ。

馴れし都の住居に歸れば、去年、彼の、孟子の在處と尋ねたる讀書あり、彼は既に孟子を讀み了へて、十八史略、日本外

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

史などを學びたりしといふ。彼のこの春に送り寄せし、習字圖畫は、手前の押に蔵めれて、また悲しみの種となる。あはれ、などて、我愚弟はかく速に逝きけん。

今、また家を去る事數百里、父母同胞や、如何ならん、獨り靜に物思ふをりの悲しさは、堪へ難きの極みなり。今日はまた、弟よりの便に、彼地目下暫く旅にありて、歸り來りし後を語りていへらく、歸り來れば、亡弟が位牌は、空しく南無阿彌陀佛を語り、寂寞悄然としてつるされ、旅行中の面白味は、何處やらに去り失せたる儀に有之候。扨兄上御歸京以來は家内一同諸共に寂しさを感じ、兄上御在松の中は、愚弟の事も、少しは打忘れ居候ひしも、御出立後又々思ひ出し、殊に、淋しき家庭と相成り申候。笑ふ聲の聞ゆるなく、話す聲もされ〴〵にて、殊に母親共に大に衰弱を來し玉ひ、父も御心配ばかり、母も御心配ばかり、時々涙に浮べるを見受申候。母の如きは殊に神經過敏にして、一寸一分の事に驚かし、病氣に非ざるかと疑はるゝ計り涙もろく、日々涙を見受けざるは稀なる程に有之候。十七夜にも泣き、盂蘭盆祭にも泣き、天神祭にも泣き、何に付け、かに付け、涙をこぼされ玉ひ、中間に立つ愚弟は殆ど困却いたし、何としてよきやら、途方に暮れ申候。姉上の御在松中はまだ〳〵面白かりし家庭も、今は姉上も去られ、親族の來らるゝ事も稀々に、またしても天は曇り、雨は濛々と降り來り、雨滴殷々たる夕べなどは、いよ〳〵燈籠の陰にて、家人ありやなしや、外よりは知る者なき計に有之候。此頃は時節柄暑ければ、人々は外に出でゝ、涼を納るゝなるに、吾家ばかりは、日暮より戸は閉され、蚊帳の中にて長大息するのみに有之候。兄上よ希くは此愚弟が衷情を、御洞察なし被下度候。誠子尊惠子は我一人守せねばならず、家のさみしく、皆者が掃除にかゝり、父は病多く、母は病多く、甚だ淋しき方に暮れ申候、云々と。

これは正に亡弟が命日に記したるよしいへり。語るものも、また語るも悲なれば、自ら早々に泣きつゝあるなるべし。

嗚、逝きし者よ、汝は今何處に在りて、此歎きを聞くや、汝の靈なく諸々の靈魂は、聚められて高き處に在り、又我等の裡に在るを信ずといへども、汝の形の、あまりにも假の世を去れるをおもへば、父母兄弟、みな空しく汝の跡を追ふて、なげき悲しむ　（八月十九日夜記）

作家及び社會に勸告す

銀月

今の小説家、新體詩人など、初めて文壇に名乘り出る處女作を見れば、將來遖れの大家となりさうに思はるゝ者、甚だ少きにあらずと雖も、其作多く出るに隨て追々退步の徴候を現はし、字句を弄ぶこと愈々巧にして、作中に含まるゝの生命は次第に衰耗し行くを見る。是れ、例證に富める確なる事實なり。

何が故に斯の如きかと問はゞ、日本人の病弊として兎角小成に安んずるの癖あり、少しく世の好評を博して群盲の歡迎を得れば、早や有頂天となりて手の舞ひ足の踏むところを覺えず。何庵とか何村とか云ふ己れの雅號を署したるものは、作の佳否を問はず、社會(寧ろ書肆)が必らず買つて呉れるものと相場を極め、糊口の爲に奔走するの懸念も先づ無くなりたれば、何時の間にか氣も弛みて惰氣に侵され、物事無性になりて見懸けは始めて詩人臭くなるなり。此詩人臭くなるの時は即ち退步の坂口にして、血まじりの腦味噌を搾り出して紙に點ずるが如き辛苦は、再び望んで得難くなるなり。是れ餘りに作家を見くびりたる言なるが如しと雖も、事の眞相は寧ろ余が言よりも過ぎたるものあるを如何にせん。

余嘗て此言を以て、或る青年作家に話せしことあり。其人曰く、足下の云ふところ其一病に中れり、更に他の一病あるを知らずやと。之を問へば曰く、名作を出し難き一原因は、作者が濫りに多作を貪るにありと。余曰く何を苦んで然く多作を貪るや。其人首を垂れて長大息して曰く、全く糊口の爲なり、已れ一身ならば下宿屋籠城をなして、腐れ綿入、破れ袷衣で寒暑を凌ぎもすべきが、母あり妹あり弟あり、止むを得ず一家を張れば隨て其費用少なからず。天來の興趣を俟ち、充分熟錬の上之を世に示すが如き呑氣なる沙汰は思ひも寄らず。生活の急問題は筆硯を驅ひ、強いて起らざるの詩興を起し、空洞無物の頭腦を搾り、日夜汲々筆を擱くの間隙なく、辛うじて以て生計を營み得るのみ。斯の如き憐むべき境遇に在るの作者に向ひ、何故に大作を出さざるやと責むるは、恰も圓太郎馬車の痩馬が千里の駿足たらざるを咎むるに同じからずやと。余は之を聽いて覺えず嘆息しぬ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本現時の作家ほど愍むべき者はなかるべし。閉鎖の外邦に通用せざるが為め、洽く世界の人をして其作を読ましむること能はず、揃てゝ加へて國内に於ける書肆讀者の數極めて僅少に、随て著作の原稿料甚だ低廉なるを以て、之に依て、一家の生計を維へんとすれば、勢ひ濫製を作し、數でこなすの方を取らざるを得ず　讀者が駄作と罵つては半ばを終らざるに擲つの篇中には、人知れざる作家の痛苦の籠りつゝあるものと知るべし。筆で飲食ふ作者の常はなし、作家の中には正直に斯く白状する者すらあり　斯く口に出していはぬ者も、其實情を探り來れば此嘆を懐き居らざるは殆んど稀し、是れ明治作家の眞相なり。歐米の作家の如き、一たび佳作を出せば、忽ち南大洋諸國の全世界に翻譯され、數十萬乃至數百萬部を賣り盡すことも甚だ容易なる所以にて、其原稿料も一作に數万若くは十數万の巨額を得るの例少なからず　斯くてこそ、はじめて生活の窮問題が解はるゝの患ひ免れ、悠々として神を錬り思を凝し、大家の興行を作て後、經綸偉大の大作を成すことを得べし。日本現時の作家は、之を望むこと能はざるなり。

余は今作家に勧告するところあらんとす。同時の狭隘なる際と、一般讀者の幼稚なる現時の社會は、到底卿等に満足を與へ得るの能力を有するものにあらず。卿等は不幸薄命の地に立つものと云ふべし。卿等にして果して自家の天職を知り、能く前人を凌がんとするの傑作を成して、之を世界の人に示し、爲世に傳へて不朽ならしめんとの大抱負を有せば、須らく生計と著作とを區別し、各獨立せしめよ。即ち生計の業を全然著作と關係なき他の方面に索め、著作を以て娯樂の道に代ふべし。是れ止むを得ざるに出る消極的手段にて、放にして相應なる詩人をし、俗人と伍して俗社會に食を求めしむるなどは眞の得たるものにあらずと雖も、庶幾くは之に依て、一生衣食の資を充たすのみに碌々たることを免れ得べし。一年間に十篇の駄作を出さんよりは、寧ろ十年間に一篇の傑作を出すを誇れりとす。作家諸君以て如何となす。

余は今の社會に向て聊か卑意を述べざるべからず。大詩人出でよ大作家出でよとは、恐くは今の社會の渇望的叫聲ならん。否、社會の聲なりとする能はざるも、少くとも社會に於ける先進者の聲なりとすることを得べし。今假りに大詩人

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なる者が、足下等の呼ぶに應じて出現すべきものとするも、足下等が社會に向て大詩人を遇するの道を敎るにあらざれば、折角出でたるの大詩人の芽生えも、其二葉の内に生育を害せられて、竟にかの駄作濫製者となり了せざる者殆んど稀ならんとす。或は曰く他の誘掖を假らずして生育すること能はざるが如きは、是れ大詩人たるの本領を有せざる者のみと。其れ豈然らんや、詩人、作家は天才の人なり、天才の人は一面に於て非常に超絕せる天分を有すると共に、一面に於ては尋常人よりも甚だ缺くるところの點あるを免れず。加ふるに、美玉碎け易く鸞鳳の卵は破れ易きの諺に齊しく、天才大なれば大なる程、失落の危險隨て多きものとす。故に社會が天才の人を遇すること、須らく美花の蕾を愛護するが如くならざるべからざるなり。文學に注目する社會の先進者よ、足下等希くは適宜の方法を設けて、今後新進する作家の中將來大家となるべき見込のある者を拔擢し、之を保護獎勵して名作を出すに專心一意ならしめ、衣食の爲めに駄作を濫製するの餘義なきに迫らるゝを免れしめよ。斯くて後始めて大詩人なる者を世に見ることを得べし。是れ寧ろ先進者の責務と云ふべきなり。若し其れ獎勵保護の道既に立ち、新進作家を迎ふるの門戶既に開くに及ばゞ、決して非常なる大天才の出でざる懸念なし。社會の眼識低く先進の不親切なるに落膽して、未だ其作の一篇をも世に出すに及ばずして、露の如く消え去りたる脆き天才、今日迄甚だ少なからざりしと思ふ。佛蘭西に於ける美術家保護法の如き方法は、日本今日の文界に必らず設けざるべからず。保護法の下に養はれたるの天才が、數年間苦心慘澹の結果、幸にして傑作と名づけ得べきものを出さば、之を國內の讀者に示すのみに止らず、少くとも必らず英語に譯して、洽く評價を世界に求むべし。是れ保護獎勵法中の主要なる條件なり。

作家に向ては生計の道を著作以外に求むべしと云ひ、社會に向ては作家に保護を與へて生計に迫るゝを免れしむべしと云ふ。余が斯の如く兩様相牴觸せる勸告をなすの微意を諒せよ。

時文

○新小説　第三年　第九卷　春陽堂版

本號は、懸賞募集の結果にて、田村松魚師の「五月闇」三島霜川の「埋れ井戸」、米水師用の「十嗣山」といふ三小説を收めたり。雜録には露伴の「稲中書」あり、忍月の「人々」あり。附録には尾崎紅葉の翻譯にかゝる、外國小説「心中舟」の初部分を載す。

○日本名勝記　上卷　渡邊霞亭著　同　版

鹽水子の筆に成れる、日本名勝記上卷は、主として東都近傍の只く、此著に際して、筆を鬼き、該を盡すに適したる努力を認めらせり。文字流麗、製本はすりて美しく、これ以て海客行李中の一品となすに適せり。因するに旅行日記の評品類なれ以ていしたるも、用意周到といふべし。

○中學新誌　校落清風　中學新誌社版

これは中學新誌の暑中に際しての、臨時增刊なりといふ。露伴、重昂、忍月、子規等の諸氏十の、すぐれたる小品韻文を多くあつめたり。

○美術評論　第一號　美術學校行所

本年學士は丸田忠一氏とが、美術の研究にぶけて、美術學校に因る者を集めたり。以て是を是を論ず。毎月三十九日の發行、一冊定價八錢なり。

ここに今を見とめす今の秋　子供

○女學文壇雑俎（本號〆切迄）

○京都の女子教育（河原一郎談）	京都　八月十三日
○女子教員養成策	秋田魁新聞八月六日
○體育と新民法	大阪　毎日新聞八月十五日
○家屋改良談	時事新報連載
甘泉翁の家庭教育（愛菊主人）	太陽第四卷第十六號
女鑑のしをり（十）三輪田眞佐子	女鑑第百六十二號
○明治女子教育（坂本三七郎）	女子の友第二十七號
○現今の女子教育を論ず（峯敏之）	花の園生第八年第十二號
女子と人物　過不過	反省雑誌第十三年第八號
兒童遊戯論　時代思潮	教育定期外第七號
現今の女子教育問題（下村三四吉）	同上

まゝよや古井の清水まで問はむ

片々

○鈴木氏の家憲　東京にて女子教育に從事せる鈴木光愛氏の「女子の友」に寄せたる「吾が家の女子教育一班」中に曰く、吾が福島に於ては、一家の財産は、父子兄弟姉妹各自に之を所有し、（例へば一千石の田畑ありとすれば、四百石を祖先田とし、三百石を父母の田とし、二百石を兄、一百石を弟の所有とするが如し）、各自に貯蓄を勉め、以て經濟の術を學ばしむといふ。されば、

經濟を重んずるに覺くべき今日は、兄も商家に在りては、四五百圓、中等の家にて二三百圓、下等社會にて一五十圓乃至二三十圓を貯蓄するを得べきことゝなるが、この貯蓄を用ふべき時は、皆自力にて之を爲すが故に、兄弟姉妹の間に富むものあり、一、貯蓄するを是とする習慣あるといふ。

○丈夫と名　女子と人物、過不過の中に、とありて曰く、今夫れ西郷隆盛と市川團十郎とを同列に比べて論ずるは、市川氏の上の名を知る人多くして、西郷氏を知る人少なきを以てなり、これ以て知るべし、女子一般は人物を知るの眼孔に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

乏しきをその主旨を誇ふるや。万朝報記者の一人、之を見て大に喜ぶ。ともに済時なるかなと。記者はまた女子を見るの最も乏しきものなりといふべし。

◎部落と私生児　河合利安氏、統計集誌上に、私生児の村落に少くして部落に多き理由を説明して、左の四點をいへり。曰く、

(一)村落にては少女が私通により妊胎するときは、對に結婚を行ひて、其醜行を蔽ふもの多きも、都會は斯は然らざるを。

(二)都會は實際男女共棲して、生涯一家を構ふるも、公然結婚の届出を為さず、從て自然其生児の公生とならざる場合多し。

(三)[illegible]の結婚により、生児の公生となる場合、村落よりも都會に少きも。

(四)村落は結婚年齢に達するも、未だ配偶を得ざるもの、都會よりも村落に少きも。

◎工女と[illegible]　京都西陣製織會社の女工は、十中八九まで[illegible]、越中、越後等より來たりし者にて、いづれも、[illegible]寄宿舎には[illegible]、[illegible]くして、個々[illegible]なすを以て、[illegible]にては、これを利用して、品行[illegible]の方法を講さんとすといふ。

◎[illegible]と婦人化粧品　ある[illegible]の[illegible]によるに、香[illegible]、香水、白粉の如きに、[illegible]の[illegible]を起すの[illegible]となるさうな。[illegible]に女子を使用するにつき、大に注意すべき[illegible]なりといふべし。

◎秋田に大女四人　秋田市[illegible]に大女、そろひも揃ひて四人あり、六尺二寸五分より五尺六寸二分に至ると。

◎[illegible]人脉　[illegible]學者の説に曰く、京都より飛驒山中を經て、[illegible]太平洋岸に沿ふ一帯に、本當の[illegible]人脉なりと。因にいふ、日本海岸に沿へる地、越後、秋田等には、[illegible]人多しと。

◎花嫁の生命保險料　米國ヴァレンチン・ヒルド氏子息の婚禮、一年間の生命保險に掛くる[illegible]万ヶ千弗といふ。また[illegible]十万弗。

◎女の[illegible]　一女子の[illegible]を以て[illegible]の[illegible]を釣り上るに堪ふべしと。さらに一すぢの毛に大象をつなぐべしといふも、大した誇張にも非さるべし。

◎[illegible]公　グラッドストーン逝いて未だ幾ならず、ビスマルクまた去れり。[illegible]はこれにて二大名物を失ひ世界の十九世紀の大切は、いよいよ淋しくなりたり。[illegible]てまた[illegible]氏未亡人、近時リヴァプールの[illegible]の主命を辭せしや、天下[illegible]りて、其亡夫の志を繼ぐの美德を讃歎す。

◎[illegible]民の友　家庭雜誌及極東、共に[illegible]刊せらる。[illegible]が多年の功績に對して、且又特に國民の友は、一時世上より、女學雜誌の夫なりとまで[illegible]せられし縁故もあるなれば、大にこれを悲しまずんばあらず。

時　報

◎[illegible]二名賞[illegible]　八月十日、[illegible]の二名に[illegible]に賞[illegible]へたり。

[illegible]郡[illegible]村[illegible]の内[illegible]村[illegible]十八番地
[illegible]長男仁平妻

露　室　ゆ　く

[illegible]夫に[illegible]へて[illegible]常に[illegible]の家を[illegible]けて[illegible]に力行す[illegible]て姑中[illegible]を[illegible]へ[illegible]自由を失ふやすく其の[illegible]作を怠らず時に之れを背にして[illegible]せしめ或は[illegible]せしむ[illegible]多年一日の如く[illegible]も[illegible]く家計を[illegible]て一家[illegible]するを[illegible]其の[illegible]行[illegible]に奇特とす依て[illegible]賞金[illegible]圓下賜す

[illegible]郡[illegible]村[illegible]七十六番地
[illegible]

吉　す　ゞ

賞[illegible]資[illegible]に[illegible]て[illegible]年二十有一にして夫重三[illegible]す時に[illegible]姑及[illegible]子一男一女あり[illegible]以て姑に事へ[illegible]以て子を[illegible]　刀尺の[illegible]みて一家を[illegible]理す[illegible]て[illegible]を師に究め出でゝ[illegible]の[illegible]となるや[illegible]子女[illegible]を以て[illegible]かも[illegible]の[illegible]子女を[illegible]して[illegible]ら女流の[illegible]に[illegible]一[illegible]をなす[illegible]姑一女[illegible]するも[illegible]の[illegible]に從事し今や[illegible]に[illegible]上官の[illegible]者たらしむる[illegible]年一日の如く[illegible]に奇[illegible]とす仍て[illegible]一[illegible]を下賜す

孝女受賞　[illegible]郡[illegible]村[illegible]平民[illegible]湖（弘化元年九月生）は[illegible]以て、[illegible]を[illegible]ひ、[illegible]兄を看護する[illegible]年一日の如し[illegible]官に聞え、[illegible]知事[illegible]賞[illegible]て金品を與ふこと左の如し

[illegible]郡[illegible]村
直　湖　て　い

賞[illegible]年[illegible]の時[illegible]は[illegible]次兄は[illegible]となり一家困難の日に方りて[illegible]に力を協せて家計を[illegible]くる所なく父死するに及んで其の家を[illegible]夫を迎へず[illegible]を守り[illegible]の母を養ひ[illegible]の兄を扶くること多年一日の如し[illegible]に[illegible]せんとするの[illegible]を[illegible]せず[illegible]行洵に奇特に付[illegible]其賞金[illegible]圓下賜す

（[illegible]受賞　三河國[illegible]郡[illegible]村[illegible]）は[illegible]家へ嫁ぎし以來、良く姑に事へ夫に[illegible]を[illegible]へ、子女を養育し三十年一日の如く、[illegible]なりしを奇特とし、[illegible]知事より木杯一個に賞金一圓五十錢を下附されたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

孝女受賞　北海道石狩國石狩郡[illegible]村の川島イトといへるは、未だ成年ならざるに、實父の長病を看護し、貧苦の中に孝養を怠らざるを以て、北海道長官は、近時之を賞するに、金十圓を以てせり。

（同日時）越後國[illegible]郡[illegible]村の山下さも、及び同國[illegible]村吉田まつの兩名は、貞節の廉を以て賞を受けたり。

貞女　京橋區[illegible]町十二番地[illegible]の妻ヘキ（四十二）[illegible]山日報八月六日

貞女　下野國[illegible]郡[illegible]村小林[illegible]ゆう（十七）[illegible]の孝女[illegible]の[illegible]やまと新聞八月七日[illegible]小女[illegible]を救はんとして共に死す　救はんとしたるものは[illegible]救はんとしたる[illegible]の[illegible]等共に十一歳（福島[illegible]八月[illegible]日）

女教員の奮闘　[illegible]北[illegible]小學校教員[illegible]田[illegible]の[illegible]八月十日）

日本婦人[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月九日

孝子表彰　[illegible]川[illegible]方治（二十四）九州日々新聞八月二日）西條町の[illegible]孝子[illegible]丸[illegible]吉の表彰（[illegible]日々新聞八月六日）

河原一郎氏　京都府高等女學校長河原一郎氏は、今般高等女學校長の代表として、高等教育[illegible]員に[illegible]はる。因にいふ[illegible]日の[illegible]には高等女學校令、議題たるべしといふ。

大石[illegible]女學校　北海道[illegible]町の大石[illegible]女學校は、八月七日新築落成式を擧行して[illegible]を執行したり。又[illegible]市[illegible]町に[illegible]教授所[illegible]といへる、[illegible]教授[illegible]出來たり。これは[illegible]の[illegible]なるべし。

一婦ものがたり　[illegible]校[illegible]、[illegible]山市に住める白井[illegible]が是きくさいへるは、今年八十歳になれるがこの[illegible]ど、手づから日本[illegible]を[illegible]りなして、[illegible]わたりに[illegible]りきぞ。[illegible]八十歳になれるが十一名[illegible]集ひて、[illegible]年の[illegible]につきく[illegible]中ときく、また[illegible]の[illegible]人、[illegible]六十七歳なるに、乳汁出でゝ[illegible]を乳養すといふ。

河合[illegible]子女史　米國[illegible]女子大學、[illegible]日本婦人[illegible]生徒は、いよ[illegible]河合[illegible]子女史に決定し、女史には七月本[illegible]米の途に就きたり。而して同第一[illegible]は、[illegible]に合格を[illegible]たるとなれども、なほ引[illegible]未、一[illegible]の[illegible]合のよし。

[illegible]　[illegible]ヰイ[illegible]ド女史[illegible]、[illegible]婦人[illegible]は、[illegible]夫人[illegible]、女[illegible]の[illegible]あり、また自[illegible]の[illegible]に[illegible]、[illegible]の[illegible]に[illegible]、[illegible]レ[illegible]ット夫人の[illegible]は、五月十九日の「ヒ、ウオイ[illegible]新聞に長文のソセルセット夫人[illegible]、[illegible]を[illegible]、[illegible]丁抹、和蘭等の[illegible]に[illegible]イ[illegible]ド女史[illegible]、[illegible]いたましきかな。

女[illegible]　米國トロント[illegible]一[illegible]の[illegible]、ケー、[illegible]ロットキャン[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金募集告白

明治女學校は、今を距る十有四年前、島田三郎、田口卯吉、木村熊二、巖本善治等が、發起創立せしものなり。時に、民間未だ私設獨行の女學校あるなく、但だ外國傳道會社の管理に係るものありしのみ。同志切りに之を遺憾とし、深く國粹に基づき、敢て日進文化の學術に適應せる、私立の女學校あらんことを熱望し、大隈伯、澁澤榮一君、其他、朝野諸名士の協贊を得て、創建せり。爾來、十四年、孜々、育英に盡力し、前後、入門生、一千五百名に超ゆ。此を以て、精神次第に貫徹し、校友四方に起り、將に擴張の機を決して天下に請ふ所あらんとする時、圖らざりき、去々年二月、隣家火を失し、校舍悉皆類燒に罹り、十年の苦心、一朝烏有に歸せり。於此乎、天下同情の士、呼ばずして應じ、衝つて義捐寄捨せらるるもの、太はだ多し、就中、紡績會社數百の工女、相約して、其賃金の貯蓄を寄附せらるるあり、有志婦人、四方に訴へて、一大慈善市を開かるるあり。甚しきは、結髮を剪して、其費を寄せらるるもの、若くは、食を斷つて、汗血の喜捨を寄せらるるものあり、感慨眞とに禁じがたし。如斯にして、合計金六千圓を得、外に、勝海舟先生の武道道場、大隈伯の鐘樓、アリスミラー嬢の外國教師館、ハーツフホルン嬢發起紀念館、鈴木眞一氏の教場一室、女學音樂會の音樂教場一室、中川嘉兵衛氏の默想室、等の建築預約を得たり　此に於て、爾後一周年を期とし、東京府下北豐島郡巣鴨村に、校地五千六百坪、建家（二階造西洋館及日本家）一百二十坪を得たり。偏へに是れ、天下仁人非常の慈惠による。今にして、吾校は、舊に劣らざるの隆盛を復するを得たる也。

因て熟ら思ふに、今の時は、則ち昔時に異る。各府縣高等女學校新たに起り、四方到る處に、女子の普通教育あり。勢宅形も十四年前の寂寥たるに似ず。蓋し、女子普通教育の器械は、略ぼ具備せりと云ふべし。夫れ、明治女學校の初て起り、爾來天下仁俠の士の協贊を辱くせる所以のものは、自から特種の趣意あるべし。若し、四方普ねく供給し得る通常容易の盡力にして止まば、必らずや恐る、熱情同感の知己に孤負せん。故に、知る。今や更に一段の難を行し、當に一歩進向の責務に任ずべき機會に立てりと。

之を以て、明治女學校第二期の教育方針として、今後將來に盡力すべきは、一に、有限若干名の女生に特種の普通教育を施すこと、二に、高等教育の課程を漸次に擴張し、他日女子大學の地位に到達せしめんこと、是れ也。其一、特種の普通教育とは、家庭及修己の訓練に重きを置くべき普通教育にして、生徒多數の女學校に於て施こしがたきものなり。其二、高等教育は、十年前來既に施授したるものなれども、今後更に擴張し、彼の高等女學校卒業後の有志をして、遺憾なく學修せしむべき科程を具へんことを望むにあり。

夫れ此の如き二箇の希望は、今の時に於て尚ほ稀有に屬す。只管らに、仁俠の士の贊助を仰ぐにあらざれば、遂行極めて難し。則ち廣く校友を募り、着々方針を進め、歩々堅實の基礎を置えて、敢て退轉せざるの進歩を了せんことを期す。茲に初て擴張の途に上らんことを決定し、先づ基本金三万圓の義捐を各地方の有志に諮はんとする也。仰ぎ願くは、天下博愛義俠の仁士、仔細に吾校多年の精神を吟味せられ、幸に同情を寄せ、愍然として贊助の恩を施こし玉へと云ふ。

明治三十一年二月

女學雜誌一手大賣捌　東京神田區表神保町　東京堂

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY